

たばこの害から子どもを守ろう

妊婦さんの喫煙による胎児への影響

お腹の中で成長中の赤ちゃんは、お母さんの胎盤やへその緒を通して酸素や栄養をもらいます。妊娠中のお母さんがたばこを吸うと、ニコチンや一酸化炭素の影響から赤ちゃんへ十分な酸素や栄養が届きにくくなります。

母乳を介したニコチンの影響

授乳中の女性がたばこを吸うと、母乳を介して赤ちゃんに影響します。

流産や早産が起こりやすくなったり、低出生体重児の生まれる率も高まります。



「受動喫煙」により健康被害を受けます

受動喫煙とは、喫煙者の吐き出す息や副流煙(たばこの先から立ち上る煙)を、たばこを吸わない周りの人が吸ってしまうことです。本人の意思に関係なく、妊婦さんや赤ちゃん・子どもの近くでたばこを吸う人がいると、受動喫煙による健康被害を受けます。

赤ちゃんや子どもに与える健康への影響

- SIDS (乳幼児突然死症候群)
- 喘息などの呼吸器疾患を引き起こす
- 間違ってたばこを食べるなど誤飲事故等

大切な赤ちゃん・子どもをたばこの害から守りましょう



たばこの煙のない環境作りが大切です



喫煙場所と禁煙場所を分けることを分煙といいます。たばこを吸う人は、周囲の人がたばこの煙を吸わないよう、喫煙マナーを厳守することが重要です。しかし、たばこ対策専門家の実験などでは、完全な分煙は困難であるといわれており、タバコを吸わないことが最も重要な対策といえます。